

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(75)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(75)—

1. 始めに

前報(74)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は、前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。今回も Crystal E に 10000F の電解コンデンサーを連結しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回から交響曲です。

Mercury Record MG10032

モーツアルト Symphony No.28 in C Major

Symphony No.25 in G Minor

Rudolf Albert 指揮 Barbarian Radio Orchestra

Kurt Eichhorn 指揮 Muenich Philharmony Orchestra

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

Mercury Record 盤ということで、EMI、逆相、第4時定数 Low で聴いていきます。

モノラル盤であり、盤質もよくありませんし、演奏もあまり聞いたことのないオーケストラで、収録も随分以前の古いもののようなのですが、二つのオーケストラともに演奏は銜のないオーソドックスなもののように聴き取れます。2曲ともモーツアルトの中期の作品で、明るく躍動的な表情が伺えます。

3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の効果などの総合的

な効果として、モノラル盤であり、盤質もよくありませんが、それなりに演奏の様子は把握できます。

以上